

# 生田勝義 教授 略歴・主な業績

## 略 歴

### 略 歴

- 1944年(昭和19)10月25日 兵庫県淡路島に生まれる  
1963年(昭和38)3月 兵庫県立津名高校卒業  
1967年(昭和42)3月 大阪大学法学部卒業  
1969年(昭和44)3月 大阪大学大学院法学研究科修士課程修了(法学修士)  
1973年(昭和48)3月 大阪大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学  
2003年(平成15)3月 立命館大学にて博士(法学)の学位を授与される

### 職 歴

- 1973年(昭和48)4月 立命館大学法学部助教授  
1980年(昭和55)4月 立命館大学法学部教授  
法学部学生主事(～1981年3月)  
1989年(昭和64)4月 法職課程主事(～1990年3月)  
1990年(平成2)4月 法学部主事・法学研究科主事(～1991年3月)  
1991年(平成3)4月 法学部調査委員長(～1992年3月)  
1995年(平成7)4月 二部部長(～1996年3月)  
1996年(平成8)4月 法学部長, 法学研究科長(～1998年3月)  
1998年(平成10)4月 立命館大学理工学部教授(法学)  
立命館大学大学院法学研究科教授(～2001年3月)  
学生担当常務理事(～1999年12月)  
2001年(平成13)4月 立命館大学法学部教授  
2004年(平成16)4月 立命館大学大学院法務研究科教授・法学部教授  
2004年(平成16)4月 セクシャルハラスメント相談室長(～2007年3月)

### 所属学会

日本刑法学会理事, 民主主義科学者協会法律部会, 日本法社会学会

## 主要著作目録

### 単 著

『行為原理と刑事違法論』(学位論文) (信山社)(2002年6月)

### 共著・編著

風早八十二監修・前野育三他著『刑法改悪』 (新日本出版社)(1976年4月)

『刑法各論講義』(有斐閣ブックス65)

上田寛・名和鉄郎・内田博文と共著(有斐閣)(1987年4月)

『現代刑法学原論〔総論〕第3版』

刑法理論研究会著(三省堂)(1996年4月)

『世紀転換期の日本と世界 第1巻 法の構造変化と人間の権利』

大河純夫と共編著(法律文化社)(1996年6月)

『大野真義先生古稀祝賀 刑事法学の潮流と展望』緊急避難の法的性質について  
可罰的違法阻却説の展開

森本益之と共編著(世界思想社)164-193頁(2000年11月)

『刑法各論講義〔第3版〕』

上田寛・名和鉄郎・内田博文と共著(有斐閣)(2003年6月)

『刑法各論講義〔第3版改訂版〕』

上田寛・名和鉄郎・内田博文と共著(有斐閣)(2005年4月)

### 論 文

「違法論における『結果無価値』と『行為無価値』について」

阪大法学82号47-105頁(1972年3月)

「沖繩協定と刑事裁判権 いわゆる教公二法反対闘争事件を中心に」

立命館法学107号16-40頁(1973年10月)

「市民的政治的自由と刑法改悪」

法の科学4号165-175頁(1976年4月)

「わが国における不真正不作為犯論について(1)(2・完)」

立命館法学128号,131号(1977年1月,7月)

「正当防衛における防衛意思,対物防衛,誤想防衛と過剰防衛」

西原春夫・藤木英雄・森下忠編『刑法学2《総論の重要問題》』

(有斐閣)40-76頁(1978年4月)

「可罰的違法性と社会的相当性」

中山研一他編『現代刑法講座 第二巻 違法と責任』(成文堂)  
33-54頁(1979年3月)

「医療行為と刑事責任」

筋立明・中井美雄編『医療過誤法入門(法学入門講座)』(青林書院新社)  
193-218頁(1979年3月)

「日米同盟強化と刑法『改正』論 刑法改正の視点 特集」

法律時報53巻12号65-69頁(1981年11月)

「保安・懲罰(武器の使用を含む)(監獄法「改正」の検討 10)」

法律時報53巻12号171-175頁(1981年11月)

「刑法『改正』問題の現状と課題(上)(下)」

立命館評論74号86-97頁(1982年7月)76号60-69頁(1983年5月)

「違法性と因果関係」

中山研一・泉正夫『医療事故の刑事判例』(成文堂)  
253-281頁(1983年6月)

「不作為による作為犯についての一考察(1)」

立命館法学171号1-15頁(1984年2月)

「ロッキード事件追求の経路-刑事責任と政治責任(ロッキード田中裁判と日本の民主主義 特集)」

法と民主主義196号11-15頁(1984年4月)

「スパイ等防止法案の解釈論的検討(現代国家とスパイ等防止法案 特集)」

法律時報57巻12号24-31頁(1985年11月)

「立法促進論のイデオロギーとその批判」

中山研一・斉藤豊治編『総批判国家機密法 危機にたつ人権と民主主義』  
(法律文化社)191-214頁(1985年11月)

The consumer protection criminal law in Japan

Ritsumeikan Law Review No. 3 Pp. 23-28 (1988年3月)

Judicial Law-Making in Criminal Law

Ritsumeikan Law Review No. 3 Pp. 126-132 (1988年3月)

The Consumer Protection Criminal Law in Japan

Ritsumeikan Law Review No. 5 Pp. 7-11 (1990年3月)

「ドイツにおける企業秘密保護刑法の歴史から学ぶもの(特集・営業秘密と刑事法

特集 )」

刑法雑誌32巻 1号117-138頁 (1991年9月)

「刑法の歴史と人間」

中山研一・森井暲・山中敬一編 『刑法理論の研究 中刑法理論の検討  
(中勝義先生古稀祝賀)』 23-44頁 (1992年3月)

「『被害者の承諾』についての一考察」

立命館法学228号31-76頁 (1993年9月)

「可罰的違法性」

阿部純二他編 『刑法基本講座 第3巻 違法論 / 責任論』 (法学書院)  
35-50頁 (1994年2月)

「行為原理と刑法」

立命館法学 (塩田親文・井戸田侃教授退職記念論文集) 231・232号  
115-156頁 (1994年3月)

「行為原理と行為論」

『刑法の理論 (中山研一先生古稀祝賀論文集 第3巻)』 (成文堂)  
75-89頁 (1997年2月)

「正当防衛に関する一考察」

立命館法学 (創立百周年記念論文集 上巻) 271・272号  
648-676頁 (2001年2月)

「政治腐敗と経済犯罪 日本における問題状況」

上田寛・大久保史郎編 『挑戦を受ける刑事司法 ボーダレス社会における  
犯罪と人権』 (日本評論社) 149-166頁 (2001年2月)

「法意識の変化と刑法の変容 ひとつの覚書」

国際公共政策研究 6巻 2号49-66頁 (2002年3月)

「影響力の濫用とあっせん収賄罪 (特集 公務員犯罪の諸問題)」

現代刑事法 4巻 7号34-39頁 (2002年7月)

「不作為による放火」

現代刑事法 5巻 7号49-58頁 (2003年7月)

「日本の犯罪発生傾向と検挙率の動向 特に都市型・多国籍型犯罪と関連して  
(犯罪の増加と自治警察を巡って)」

月刊自治研529号46-56頁 (2003年10月)

「日本における治安法と警察 その動向と法的課題」

立命館法学292号57-79頁 (2004年3月)

「挑発と量刑」

『量刑法の総合的検討(松岡正章先生古稀祝賀)』(成文堂)  
165-193頁(2005年2月)

「厳罰主義と人間の安全 刑法の役割についての一考察」

『民主主義法学・刑事法学の展望 下巻 刑法・民主主義と法  
(小田中聰樹先生古稀記念論文集)』(日本評論社)37-65頁(2005年12月)

「刑罰の一般的抑止力と刑法理論 批判的一考察」

立命館法学(立命館法学第三百号記念論文集)300・301号  
24-44頁(2006年1月)

「グローバル化下での組織犯罪と刑法」

上田寛編『国際組織犯罪の現段階:世界と日本(講座人間の安全保障と国際  
組織犯罪 第2巻)』(日本評論社)68-84頁(2007年8月)

「人身取引問題の現状と課題」

大久保史郎編『人間の安全保障とヒューマン・トラフィッキング(講座人間の  
安全保障と国際組織犯罪 第3巻)』(日本評論社)197-213頁(2007年10月)

「違法性の理論について(特集 佐伯刑事法学の検討)」

犯罪と刑罰18号41-59頁(2008年3月)

「佐伯刑法理論の思想的背景 その国家像・人間像(特集 佐伯千博博士の刑事  
法学)」

刑法雑誌48巻1号85-103頁(2008年9月)

「特集 自由と安全と刑法 企画の趣旨 総論を兼ねて」

刑法雑誌48巻2号59-66頁(2009年2月)

教科書・解説

「労働刑事事件をめぐる問題点」

中山研一・宮沢浩一・大谷実編『刑法各論』(青林新社)  
172-183頁(1977年4月)

「公務の執行を妨害する罪」

福田平・大塚仁・宮沢浩一・小暮得雄・大谷実編『刑法(5)各論』  
(有斐閣)180-205頁(1977年6月)

「刑法改正問題」

中山研一編『現代刑法入門』(法律文化社)92-109頁(1977年12月)

「正当防衛における防衛意思」

西原春夫・藤木英雄・森下忠編 『刑法学2《総論の重要問題》』  
(有斐閣双書) 40-53頁 (1977年12月)

「自招危難」

平野龍一編 別冊ジュリスト57号 刑法判例百選 総論  
102-103頁 (1978年2月)

「公務執行妨害罪における『暴行』」

平野龍一編 別冊ジュリスト58号 刑法判例百選 各論  
26-27頁 (1978年4月)

「裁判の民主化」

天野和夫・片岡昇編 『現代法学入門』(法律文化社)  
134頁-157頁 (1979年3月)

「犯罪の概念, 行為, 構成要件, 違法性」

中義勝・吉川経夫・中山研一編 『刑法1 総論』(蒼林社)  
43-168頁 (1984年1月)

「自招危難」

平野龍一・松尾浩也編 別冊ジュリスト82号 刑法判例百選 総論(第二版)  
90-91頁 (1984年3月)

「公務執行妨害罪における『暴行』の程度」

平野龍一・松尾浩也編 別冊ジュリスト83号 刑法判例百選 各論(第二版)  
220-221頁 (1984年4月)

「違法性, 錯誤」

大野真義・墨谷葵編著 『要説刑法総論』(嵯峨野書院)  
112-129頁, 216-232頁 (1984年12月)

「通名による再入国申請書の作成と私文書偽造罪の成否」

法学セミナー363号30-3 148頁 (1985年3月)

「騒擾罪の成立要件 新宿騒擾事件上告審決定」

ジュリスト臨時増刊(昭和59年度重要判例解説) 838号  
171-173頁 (1985年6月)

「名誉に対する罪, 公務員・公務所の意義, 公務の執行を妨害する罪」

大野真義・墨谷葵 『要説刑法各論』(嵯峨野書院)  
129-143頁, 400-417頁 (1987年4月)

「猥褻の概念 問い直される処罰根拠」

芝原邦爾編・別冊法学教室(刑法の基本判例) 184-187頁 (1988年4月)

- 「改ざんコピーの作成と偽造・変造罪(特集・刑法各論の新論点)」  
法学教室132号24-25頁(1991年9月)
- 「『職務ヲ執行スルニ当リ』の意義 熊本県議会事件」  
平野龍一・松尾浩也・芝原邦爾編 別冊ジュリスト117号  
刑法判例百選 各論(第三版)208-209頁(1992年4月)
- 「刑法159条,160条,161条,161条の2」  
大塚仁・川端博編『新・判例コンメンタール 刑法4』(三省堂)  
388-431頁(1997年12月)
- 「不作為による放火」  
別冊ジュリスト142号 刑法判例百選 総論[第四版]  
14-15頁(1997年4月)
- 「『職務を執行するに当たり』の意義 熊本県議会事件」  
別冊ジュリスト143号 刑法判例百選 各論[第四版]  
214-215頁(1997年5月)
- 「名誉棄損罪における事実の証明」  
大野真義編著『演習刑法各論』(晃洋書房)99-108頁(1988年5月)
- 「刑事手続と人権」  
中川淳編『やさしく学ぶ法学』(法律文化社)58-72頁(1999年4月)
- 「必要的共犯」  
別冊ジュリスト166号 刑法判例百選 総論[第五版]  
194-195頁(2003年4月)
- 「強盗罪の要件たる暴行脅迫(1)」  
別冊ジュリスト167号 刑法判例百選 各論[第五版]  
70-71頁(2003年4月)
- 「刑事手続と人権」  
中川淳編『やさしく学ぶ法学[第2版]』(法律文化社)  
60-74頁(2003年4月)
- 「間接幫助」  
別冊ジュリスト189号 刑法判例百選 総論[第6版]  
174-175頁(2008年2月)
- 「販売の目的の意義」  
別冊ジュリスト190号 刑法判例百選 各論[第6版]  
216-217頁(2008年3月)

## 辞 典

(刑法部分の分担執筆)

河本一郎・中野貞一郎編集代表『法学用語小辞典』(有斐閣)(1983年3月)

(刑法部分の分担執筆)

杉村敏正・天野和夫編集代表『新法学辞典』(日本評論社)(1991年2月)

(刑法部分の分担執筆)

中川淳・大野真義編『新版 法律用語を学ぶ人のために』(世界思想社)

(2008年5月)

## 判例回顧

「判例回顧と展望1993」(本田稔と共著)

法律時報66巻5号27-45頁(1994年4月)

「判例回顧と展望1994」(本田稔と共著)

法律時報67巻5号24-42頁(1995年4月)

「判例回顧と展望1995」(本田稔と共著)

法律時報68巻5号24-40頁(1996年4月)

## 書 評

京藤哲久「法秩序の統一性と違法判断の相対性」

『平野龍一先生古稀祝賀論集』(平成三年)所収

法律時報64巻11号104-107頁(1992年10月)

井上宜裕「緊急避難下の不可罰性と第三者保護に関する一考察 フランス刑法を中心として(一)～(三・完)」

法律時報72巻4号99-101頁(2000年4月)

深町晋也「主観的正当化要素としての同意の認識の要否 同意の処罰阻却効果の『絶対性』との関係について」

法律時報74巻7号85-88頁(2002年6月)

松原芳博「所持罪における『所持』概念の行為性」

『刑事法の理論と実践 佐々木史郎先生喜寿祝賀』(平成十四年)所収

法律時報75巻5号86-88頁(2003年5月)

## 紹 介

「西ドイツ刑法改正の責任および答責理論の理論的・イデオロギー的基礎」



現代法研究1(1973年)

「ベーター・ブリンゲヴァード『心臓ペースメーカー再利用の場合における医師の説明義務の範囲』(学界 展望 最近の外国刑法事情7)」

警察研究54巻2号92-96頁(1983年2月)

「ヴォルフガング・ナウケ『刑罰目標と犯罪概念との相互作用』」

立命館法学196号100-110頁(1988年3月)

「マルテ・ディーセルホルスト「『第三帝国』におけるオイタナジー」(ラルフ・ドライアー, ボルフガング・ゼラート編「第三帝国における法と司法」4)(最近の外国刑法事情104)」

警察研究62巻8号69-76頁(1991年8月)

「ハンス・ルートヴィッヒ・シュライバー「『第三帝国』における刑事立法」(ラルフ・ドライアー・ヴォルフガング・ゼラート編『第三帝国における法と司法』8)(最近の外国刑法事情107)」

警察研究63巻1号67-71頁(1992年1月)

「ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(1)」

立命館法学233号109-131頁(1994年6月)

「ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(3)」

立命館法学236号220-226頁(1994年12月)

「ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(4)」

立命館法学237号205-227頁(1995年1月)

「ギュンター・シュペンデル祝賀論文集の紹介(5)」

立命館法学238号86-94頁(1995年3月)

「連載を始めるにあたって(フランクフルト大学犯罪科学研究所編『刑法の驚くべき状態について』の紹介(1))」

立命館法学248号266-267頁(1996年12月)

「ミヒャエル・ケーラー『帰責の概念』ハンスヨアヒム・ヒルシュ古稀祝賀論文集の紹介(3)」

立命館法学273号572-580頁(2001年2月)

その他

「不作為による放火(セミナー・リーディングケース刑法4)」

法学セミナー243号62-65頁(1975年9月)

「警察と人権」(山下健次と共同執筆)

- 杉村敏正・光藤景皎・東平好史編 『警察法入門』(有斐閣)  
4 - 5 頁 (1975年11月)
- 「逮捕監禁罪，脅迫罪，誘拐罪」  
西原春夫編 別冊法学セミナー基本判例シリーズ9 判例刑法 各論  
134-140頁 (1975年11月)
- 「超法規的違法阻却事由，責任の本質」  
石川才頭編集 別冊法学セミナー40号 司法試験シリーズ3 刑法  
59-66頁 (1979年7月)
- 「基本書の選び方，使い方 刑法」  
法学セミナー1980年増刊 法学入門 168-173頁 (1980年4月)
- 「1960年代日本における法構造の展開」  
『第1回日ソ学術シンポジウム報告集 戦後日本の社会構造の変化』  
立命館大学人文科学研究所216-231頁 (1980年6月)
- 「因果関係と他の事情の介入，誤想防衛，不能犯，刑罰の本質」  
斉藤誠二編 『演習ノート 刑法総論』(法学書院)(1982年10月)
- 「子供会のハイキング中に起きた児童の水死事故とボランティア引率者の過失」  
法学セミナー363号30-3 149頁 (1985年3月)
- 「責任 『誰そのせいだ』と『誰それはけしからん』で成り立つ(特集 刑法入門・講義にそなえて)」  
法学セミナー364号30-4 48-49頁 (1985年4月)
- 「騒擾罪の成立要件〔新宿騒擾事件〕」  
法学セミナー375号31-3 65頁 (1986年3月)
- 「刑法一一〇条の一項の放火剤と公共の危険発生の認識の要否」  
法学セミナー375号31-3 66頁 (1986年3月)
- 「刑法(ワークショップ)」  
刑法雑誌31巻3号408-412頁 (1991年1月)
- 「〔コメント〕「犯罪論」について」  
徐益初・井戸田侃編著 『現代中国刑事法論(現代中国叢書3)』  
(法律文化社)48-55頁 (1992年9月)
- 「共犯の因果性」  
受験新報42-10 44-45頁 (1992年10月)
- 「応報感情を考える(死刑廃止を求める刑事法研究者意見集(特別企画 死刑廃止を考える))」

立命館法学 2009年5・6号(327・328号)

法学セミナー466号38-10 38頁(1993年10月)

「政治腐敗と刑事法(ワークショップ)」

刑法雑誌35巻3号487-491頁(1996年5月)

「刑法は劇薬なのだ 拙著『行為原理と刑事違法論』を語る」

立命館大学法学部ニューズレター31号8・9頁(2002年12月)